

平成 29 年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：宗谷地区
- 2 事例報告学校名：浜頓別町立頓別小学校
- 3 報告者：校長 長谷川 富夫
- 4 キーワード：確かな学力の定着を図るサイクル

1 はじめに

頓別地域は、浜頓別市街地より南東 3 k m、国道 2 3 8 号線に接し、「頓別川」「豊寒別川」「クッチャロ川」が合流する河口付近にあり、オホーツク海を望み、古くから漁業を中心に栄えてきた地域である。現在は、世帯数 2 0 0 戸・人口 4 0 0 人ほどで、住民は漁業および関連加工場に従事し、毛ガニ・ホタテ・たこ・鮭等の水揚げが盛んである。近年ホタテ加工場には、中国からの研修生が多く従事している。

本校は、明治 4 1 年創設、大正 1 0 年頓別尋常小学校として開校し、現在に至っているが、浜頓別市街地に近いため、後継者となる若い世代は浜頓別市街地に住居を構え、頓別小学校へ入学する児童が減少している。今年度は児童数 9 名、今後 2 年間は入学予定の児童はいない状況である。

本校では、学校の教育目標の具体化を図った学校改善プラン（頓小プロジェクト）を作成し、全教職員が共通理解を図り実践を進めている。今回、実践事例として、「確かな学力」について紹介する。

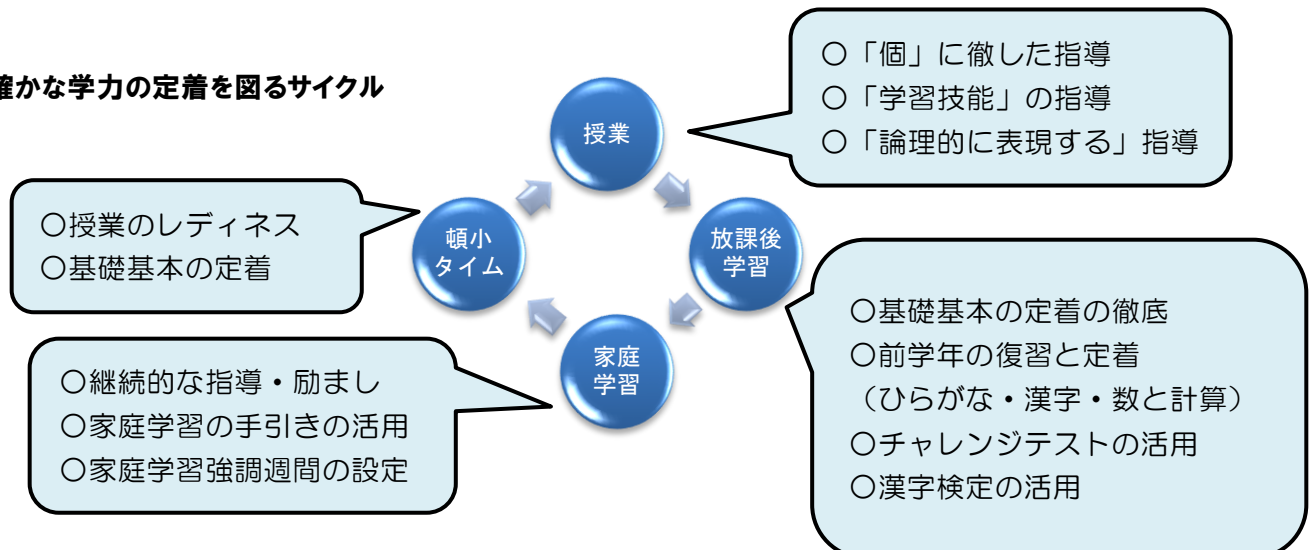
2 実践紹介・頓小プロジェクト「確かな学力」編

○平成27年度から平成29年度の全国学力学習状況調査の結果から

平成 2 7 年度の全国学力学習状況調査では、国語 A が全国平均と同等程度だったものの、国語 B・算数 A・算数 B で課題が見られた。国語 B では、記述式の問題に課題が見られた。算数 B では、「概数を用いた見積もりの結果とそれに基づく判断を理解し、その理由を記述する」問題などに課題がある。平成 2 8 年度の全国学力学習状況調査では、算数 A・B が全国平均をやや上回った。一方、国語 A・B では、全国平均をやや下回り、課題が見られた。国語 A では、ローマ字の読みと表記、国語 B では、条件に合わせた記述が書けていなかった。

平成 2 9 年度の全国学力学習状況調査では、国語 B・算数 A・B が全国平均を上回った。算数の基礎的な学力は身につけているといえる。平成 2 6 年度から平成 2 9 年度までは、算数 A・B は正答率が毎年上昇しており、児童個別の実態もあるが、学校研究（研究教科：算数科）の成果が出てきているといえる。一方、国語は、国語 A・B とともに横ばいであり、学校全体や学級でのより学力の定着につながる取り組みが必要である。

☆確かな学力の定着を図るサイクル



○学び方の指導【算数科】の場合

・自分の考えを論理的に説明したり、よりよい考えを友達や教師に説明したりする指導を行う。

【具体例】4年生「ペントミノ」

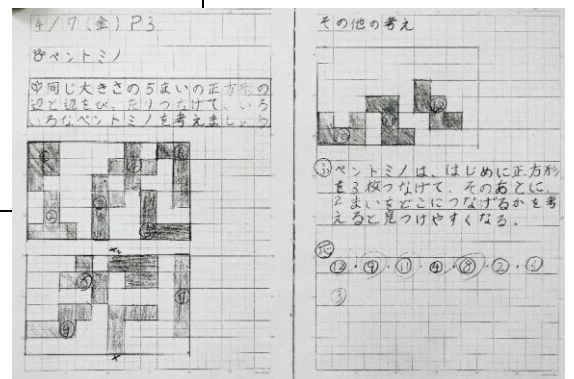
	学習の流れ（・主な学習活動）
導入	<ul style="list-style-type: none"> 同じ大きさの正方形を何枚かつなげた形には、ドミノ（2枚）、トロミノ（3枚）などの名前がついていることを知る。
	<p>課題 同じ大きさの5枚の正方形の辺と辺をぴったりつなげて、いろいろなペントミノを考えましょう。</p> <p>T: 例えば、どんなペントミノがあるかな？</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え（問題の求め方）を交流する。 他の考え方について、質問したり感想を述べたりする。 他の考え方やよりよい考え方を相手に説明する。
応用	<p>応用問題</p> <ul style="list-style-type: none"> 12種類のペントミノのうち、組み立てるとふたのない箱の形になるものが8種類あります。できるだけたくさん見つけましょう。

平成29年度の指導の重点①

- 自分や友達の考え（一人学年は、教師の考えなど）、教科書に例示された考えを説明する活動を設ける。

平成29年度の指導の重点②

- よりよい考え方を他の友達や教師に伝える活動を設ける。



○日課表の工夫と定期的な放課後学習【HKT】の設定

個に徹した指導という観点から、以下のことに取り組んでいる。

- 職員朝会から職員終会へ変更し、朝読書と朝学習に全教職員が全教室に入り指導する。
- 全校朝会から全校集会へ変更し、朝学習を重視
→月1・2回実施していた全校朝会を月に1回中休みに全校集会に変更
- 職員会議や研修の日は、特別6時間授業を行い、授業時数の確保に努める。
→昨年まで職員会議や研修の日は、通常5時間授業を行ってきたが、今年から特別6時間授業（昼休みと掃除のない日課）を実施して、月1・2時間の授業時数増を確保する。

④ 全校的な放課後学習の日【HKT】の設定

→週予定表に【HKT 20】（放課後学習を20分行う意味）のように記入し、週1回程度、課題を克服する時間を設ける。

日	放	国語	算数	社会	理科	道徳	総合	体育	音楽	美術	外国語	その他
1		国語	算数	社会	理科	道徳	総合	体育	音楽	美術	外国語	
2		算数	算数	算数	算数	算数	算数	算数	算数	算数	算数	
3		国語	社会	社会	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	
4		国語	総合	総合	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	
5		国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	国語	
放		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	

○家庭学習強調週間の設定と家庭学習の手引きの活用

学期に1回以上、家庭学習強調週間を設けて、家庭学習の計画を立てたり、学習時間を記入したり、振り返りや励まし・助言を行って家庭学習の定着を促す。保護者にも励ましを書いてもらう。

子どもたちの家庭学習の定着と保護者との家庭学習の内容の共通化を図るため「家庭学習の手引き」を作成する。

3 おわりに

確かな学力の定着を図るサイクルでは、授業改善が重要となる。従来の知識習得学習は個人学習が主だが、これからは協働的な学び・対話的な学びが中心となる。頓別規模での「対話」とは何か。児童数の減少により、「対話的な学び」をどう実現していくかが課題である。